2004 年度 委員会活動成果報告

（2005 年 2 月 15 日作成）

委員会名	地盤震動小委員会	主 査 名：川瀬　博
所属本委員会 （所属運営委員会）	構造委員会 （振動運営委員会）	委員長名：西川孝夫 主 査 名：篠崎祐三
設　置　期　間	2001 年　4 月　～　2005 年　3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画	地盤震動に関する研究上の諸問題、研究状況、動向を把握し、シンポジウムを開催し、地盤震動研究の方向付けを行う。また活動 30 周年の記念出版物を刊行する。各年度の活動としては、毎年秋に地盤震動シンポジウムを開催するとともに、大会開催地の地盤震動研究に関して情報交換する地域交流会を開催する。	
委員構成 （委員名（所属））	主査：川瀬 博(九州大学)　幹事：加藤研一(鹿島)・山中浩明(東工大) 委員：岩田知孝(京大), 釜江克宏(京大), 清野純史(京大), 小山 信(建研), 高井伸雄(北海道大), 青井 真(防災科研), 大野 晋(東北大), 森伸一郎(愛媛大), 飛田 潤(名大), 境 有紀(筑波大), 芝 良昭(電中研)	
設置 WG （WG 名：目的）	シンポジウム企画 WG：地盤震動シンポジウムの企画・立案	
2004 年度予算	530,000　円	

項　　目	自己評価
委員会活動状況 （開催日・参加人数）	２００４年４月２３日第一回小委員会＋企画 WG　参加 16 名 ２００４年６月２５日第二回小委員会+企画 WG 参加 10 名 ２００４年７月２７日第三回小委員会+企画 WG 参加 12 名 ２００４年１０月２９日第四回小委員会+企画 WG 参加 11 名 ２００５年１月６日第五回小委員会+企画 WG 参加 14 名 ２００５年１月７日地盤震動シンポジウム　参加 190 名
得られた成果	（成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無） 今年度は第３２回地盤震動シンポジウムを「表層地盤の増幅特性評価の現状と課題－地盤震動研究を耐震設計に如何に活かすか(その３)－」と題して１月７日に開催した。表層地盤の増幅特性に焦点をあて、地盤震動小委員会と基礎構造系振動小委員会が合同して、この問題の現状と課題について討論した。参加者は約 240 名であった。またこの１０年間の地盤震動研究の成果をまとめ、2005 年 1 月に全 400 ページの「地盤震動　－現象と理論－」を刊行した。地域交流会では大会二日目に北海道大学内の高等教育機能開発総合センターで 60 名以上の参加を得て実施され、北海道の地震環境と被害調査の現状と課題が報告され、大変有意義であった。また 2004 年度の大会では振動 PD として「強震動予測と設計用入力地震動」の開催企画を担当し、多数の聴衆を得てこれを成功裏に終えることができた。
	委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s4/index.htm
目標の達成度	（当初の活動計画と得られた成果との関係） 今年は特にテーマが表層地盤の評価ということで、基礎構造系振動小委員会と合同で地盤震動シンポジウムを開催したが、多数の参加者を得て活発な議論がなされた。資料集も好評で完売であった。地域交流会では地元の研究者のご尽力により、特に講演終了後の個別の議論において有意義に交流を深めることができた。刊行物については、当初スケジュールよりはかなり遅れたものの、校正・索引等の詰めの作業を短期間で精力的に行い、無事 2005 年の年頭に刊行することができた。以上の活動成果から、目標は十二分に達成したものと考えている。
その他評価すべき事項	第３２回地盤震動シンポジウムを開催するに当たって基礎構造系振動小委員会との合同幹事会や合同小委員会、テーマ策定 TG の会議などを持ったことは、それぞれの委員会での考え方の相違を認識する上で大変有意義であった。